

# 地域の魅力

## 日本の自然の中心地 「自然首都・只見」 魅力ある地域資源活かした、 地方創生への取り組み



渡部 勇夫  
只見町長

### ● 只見町の概要

只見町は福島県の西南、南会津郡の西北部にあり新潟県に接しています。

町の総面積は747.56km<sup>2</sup>であり、東京23区の約1.2倍の広さを有しています。その面積の約94%は山林に囲まれる自然豊かな町です。気候は日本海型に属し、冬の積雪量は2m～3mとなり、屈指の豪雪地帯として特別豪雪地帯に指定されています。

町の周囲は高い山々に囲まれ、その間を伊南川と只見川が流れ、川の流域に沿って集落

と農耕地が散在しています。林産資源や水資源が豊富で、農業では米どころとしても有名です。

本町の人口は現在約3,800人です。予想よりも少子高齢化と人口減少が進んでいる中で、どのようにこの地域を維持・発展をさせていくかが重要な課題となっています。

### ● 只見町の観光客の変遷

今回、地域の観光資源を焦点とした取り組みを皆様にご紹介するにあたりまして、これまでの只見町の観光について振り返りご紹介

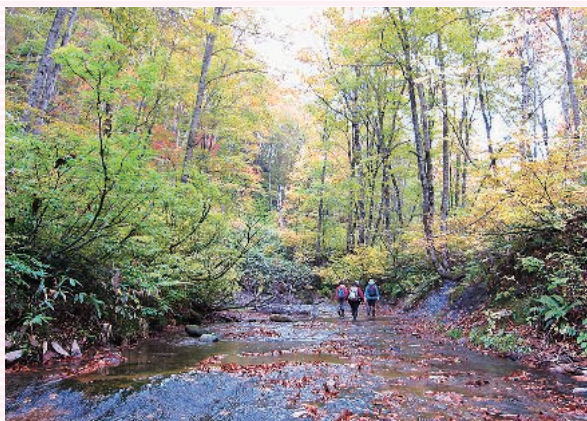


雪に囲まれた冬の「只見湖」

をさせていただきたいと思います。

国の電源開発事業により田子倉ダムが昭和30年代に建設された後、“田子倉ダム観光”を中心に、「観る観光」が主体でありました。特に、“田子倉湖”での大型船による湖上遊覧が人気でもありました。他にも、スキーブームの先駆けにオープンした「只見スキー場」や、大自然を味わう「キャンプ場」などの観光スポットも人気でした。また、当時は、マイカーによる観光客も多かったこともあり、冬季通行止めとなっている新潟県と只見町を結ぶ国道252号が、ゴールデンウィーク前に開通するかどうかによって、この時期の町内の経済に大きく影響するほどでした。その後、少しずつですが“団体旅行”から“個人旅行”へ変遷し、観光への価値観も“観て感動する観光”から“体験して感動する観光”などに、切り替わってきました。

その中で、2020年に発生した新型コロナウイルス感染症による観光への影響、とりわけ観光客の落ち込みはこの小さな只見町で観光業に携わる事業者の方々には、非常に大きな打撃となりました。現在では、感染症の分類も5類となりましたが、以前のような状況までに回復していない現状にあります。



紅葉の「恵みの森」散策

## ● 人間社会と自然環境の共生を実践するモデル地域「只見ユネスコエコパーク」

只見町は、人間社会と自然環境の共生を実践するモデル地域として、平成26年にユネスコから認定されています。全国では10地域、東北地方では唯一登録となっています。このユネスコエコパークとして、世界的な認定を受けるためには、学術的な調査に基づく優れた地域である証明が必要となりますが、幸い只見町では、過去より様々な分野で調査が行われたこともあり、その結果が証明を後押しする形となりました。

近年、サステナブルツーリズムやアドベンチャーツーリズムなどが注目されており、観光に対する価値観が変わってきています。今こそ只見町にある、自然・文化・歴史などの要素を“観光資源”として磨き上げることが重要であると考えています。



只見の文化：ぜんまい干し

## ● 株式会社モンベルとの連携

令和3年8月2日、只見町は株式会社モンベルと連携と協力に関する包括協定を締結いたしました。その理由は、只見町のまちづく

りの基本理念である「人と自然の共生」と株式会社モンベルが掲げる「7つのミッション」が同じ方向性であることによるものです。協定の締結をきっかけに、只見町ならではのエコツーリズムによる観光振興を目的とした「只見町グランドデザイン」をまとめたいただき、今年度からは、グランドデザイン提案に基づき、具体的な事業展開が始まりました。その一つがアウトドアアクティビティ事業実践のためのガイド育成講習会です。パドルスポーツ（カヤック）やトレッキング、サイクリングなど只見町の観光資源を活用するため、ガイドとして活躍していただける人材育成に取り組み、地域経済の活性化に繋がりたいと考えております。



モンベルパドルスポーツ講習

## ● JR 只見線全線運転再開などの好機を活かす

昨年、2022年10月1日に全国屈指のローカル線としても知られる「JR 只見線」が、11年ぶりに全線運転再開を果たし、今年10月1日には1周年記念を迎えることができました。今でも多くの方々にご乗車をいただいております。ラッピングを施した車両の運行や季節ごとの

様々な特別列車の運行なども続いております。また、本年6月には県を越えて「えちごトキめき鉄道」の特別列車“雪月花”も運行されました。全国のローカル線のモデルとして、一過性のものにならないように、努めてまいりたいと考えております。



JR 東日本特別列車「越乃 Shu \* Kura」

## ● 未来にむかっでの挑戦

新型コロナウイルス感染症が5類に指定され観光資源を活用した地域活性化の取り組みが更に重要となってまいりました。また、3年後には新潟県三条市と結ぶ「国道289号の全線開通」という、非常に大きな環境の変化もあります。

改めて、只見町にある観光資源は、磨き上げることで輝く魅力的なものがたくさんあり、今こそ只見町の観光への取り組みが地方創生に繋がるものと思います。あわせて、地域経済を支える事業者の後継者対策、新たな事業者の育成などの課題もありますので、只見町商工会や町の指定金融機関であります東邦銀行等と連携を図りながら、将来に向けてしっかりと只見町の魅力向上、地域経済の活性化に取り組んでまいります。